

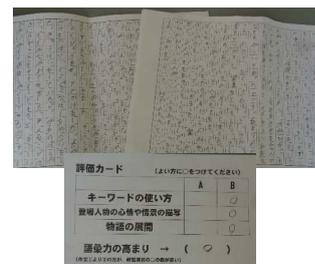
1. 実践研究テーマ

語彙力の育成

2. 取組の内容(協力校等との連携等を含む)

1. 児童の作文による語彙力の高まりの評価

1学期末と2学期末に同じテーマ「もも・おじいさん・メールというキーワードの入ったお話」で作文を書かせた。文字数・誤字脱字数・使えているキーワードの数・キーワードの使い方・登場人物の描写・物語の展開について、2回の作文を読み比べることで、語彙力の高まりを評価した。



2. 拠点校での取組の検討・実践

拠点校では、2学期に職員一人一人が語彙力の育成に向けた取組を行った。夏休みの学校訪問では、協力校の先生方と一緒にどのような取組をするべきかを検討した。2学期には、それぞれの持ち場で実践を行った。(音読、暗唱、視写等)

クラブ活動や委員会活動でも、語彙力の育成を意識した取組を行った。

3. 拠点校公開授業・授業研究会

『算数科3年「間の数」における語彙力の育成』を目指した授業を公開し、授業研究会を行った。語彙力の育成に視点をおき、授業の成果と課題についてグループ協議を行った。



4. 協力校の公開授業参観

各校で行っている公開授業について協力校にも案内し、参観できるようにした。

3. 取組の成果

○ 教職員の変容

- ・職員に、学校の教育活動全体で語彙力を育成しようとする意識が高まった。
- ・全職員が語彙力の育成に向けた取組を行うことができた。
- ・授業を参観し合うことで、中学校区の先生方と連携を深めることができた。
- ・作文を2回評価することで、児童の変容を実感することができた。

○ 児童生徒の変容

- ・語彙力の高まりが見られた。1学期末に書いた作文と2学期末に書いた作文では、文字数の増加や表現の高まりが見られる児童がいた。
- ・授業中だけでなく、クラブや委員会活動においても、書いたり、話したりすることで、自分たちの思いを適切に伝えようとする姿がみられるようになった。

4. 2年間の実践を振り返って

- ・他校の先生方や指導主事・鳴門教育大学江川先生に来校していただき、ご指導・ご助言をいただくことで、本校職員の意識や取組の内容が高まったように思う。
- ・語彙力の育成は日々の実践の積み重ねが大切であるということが分かった。一人一人の職員が取組を継続していけるようにすることが課題である。